



第1号

令和7年4月30日

庄和すずらん幼稚園

新しく入園された皆さま、そして、進級された皆さま、おめでとうございます。  
この“保育だより”は、すずらん幼稚園の園運営や教育理念、教育内容、教育方法、そして具体的な実践を、皆さまに知っていただく一助として、思いつくままに発表させていただく“保育随想”として、園長が毎月一回を目安に配布させていただくものです。

## 保育随想

### ★心が晴れる新習慣を！

入園式、始業式、懇談会、個人面談、園舎内外の園内巡りなどの活動を経て幼稚園生活が始まりました。大人も子ども達も初めての事を一つ一つ体験して、身の置き所や対応を見付けております。声を掛けられて、ぱっと気持ちが変わる一日一日は、新しい幼稚園生活に慣れる一日一日とも言える毎日です。出来るだけ一人ひとりに声を掛けて、少し先にはアイコンタクトで気持ちが通じ合う生活を目指しております。言葉は、その子に伝わる言葉で丁寧が基本ですが、時としてお互いの気持ちが通じ合うには十分ではない事を感じます。このことと言えば、7秒間の見つめ合いが出来る！これは思いの外長く、意図してしなければ出来ない事です。普段の生活の中でも、見ている様で見逃してしまっていたり、見ていないようでも認識していたりすることが常であります。はっきりとした意思で伝え合わないと、この時期に限らず乗り越えられないのではないのでしょうか。我々日本人には特に、忖度と言う良い、そして曖昧な対応も人間関係も保たれていますが、時として、ここまで言えば分かって！とやきもきや思い違いが生ずるものです。

こんな事をあれこれと思いながら毎日、取り分け4月から始まる新しい環境は、最初の一ヶ月は、見るもの出合う事に一生懸命であり、時には声を張り上げて頑張ります。苦労という事ではないのですが、一日一日、喜びも見いだせて過ごす生活を送ります。私達の喜びの根幹には、自分と関われることでの成長や変化、そして喜びを得られるところにあります。よく5月病などと言われる現象も耳にします。頑張りすぎて声が出なくなったり、5月の長い連休を過ぎてから倦怠感から抜け出せないで居ること等々、一年をやり通すと言うことは平坦ではありません。これらを称して適応障害などと位置づけられて専門家に相談をするに至る場合もありますが、頑張りすぎて自分を超えない事が肝要です。**生きる上で自分を保つ**と言うことは、丁度マラソンの走りのペース作りにも似ております。走りは42キロをイーブンペースで走り抜くことを目標にしますが、その時その時を味わう気持ちで、前に進むことかと思うのです。新しい環境は、誰でも初めてに近い事ですが、気負わずに此处まで対応の経験をしてきた事に立ち返り、やれることから始めて見る事で大概のことは、案外動き出すものです。やってみようと言う思いは、生きることの最初の一步です。今までの失敗の数々は、劣等感にもつながりましたが、**やってみよう！**の気持ちで動き出した先には、きっときっと心が晴れる世界があるかと思います。出発の時と受けとめて、この春を迎えた季節に、自分への挑戦を致しましょう。